広報もろやま　9月20日号　No 865
■発行　毛呂山町　■一部当り 39.8円
■編集　秘書広報課広報広聴係

生徒数名が犠牲。現在使用されていない閖上中学校

巻末特集

『夏休み・被災地応援ツアー』20120823

毛呂山町東日本大震災復興支援プロジェクト委員会では、子どもたちが震災体験者の話を聞き、心に刻んでもらうことで、大震災の記憶を風化させないことを目的に「夏休み・被災地応援ツアー」を企画しました。この企画に、多くの親子が参加し、8月23日に宮城県名取市閖上（ゆりあげ）地区を訪れました。

被災した名取市閖上地区を一望できる日和山（ひよりやま）

私の住むこの名取市閖上（ゆりあげ）地区は、赤貝で有名な漁業が盛んなとても穏やかな町でした。震災前は７１００人くらいの人が住んでいたのですが、今は町の方には10人ほどしか暮らしていません。昨年３月11日に東日本大震災が発生し、この閖上地区でも震度６強の強い揺れが観測されました。しかし、実は地震で亡くなった人は、ひとりもいなかったのです。地震発生から約１時間後に襲われた津波で、閖上地区では７４２人の人が犠牲になってしまいました。わずか約20分で町が津波にのまれ壊滅したのです。

私は、消防団員であったため、震災当日は、市民の避難誘導を必死にしていました。そして翌日の朝６時ごろから本格的な救助作業を行いました。私の知人も重機を使って作業を行ったのですが、ご遺体を何体も発見することになり、逃げ出したくなったそうです。でも、自分の作業を待っている人がいると思うと辛（つら）くてもやめられなかったといいます。私も救助活動を始めてから２か月くらいはノイローゼ気味になりました。今はこうして語り部をしていますが、当事上司から辛いならやめてもいいと言われました。しかし、ある人から「お前は、被災したこの閖上のことを一番知っているひとりなんだろ。だから皆に伝えてこの震災を忘れないようにするのがお前の務めだっぺ」と言われ、語り部を続ける決意をしました。

被災地では、今も復興に向けて頑張っています。しかし、震災の記憶は、受け継いでいかなくてはなりません。これからもできる限り語り継いでいくことも、今の私にできる務めであると考えています。

地震の発生時刻から時を刻んでいない閖上中学校の時計

語り部
高野俊伸さん
名取市商工会
産業振興・復興支援補助員

〒350－0493 埼玉県入間郡毛呂山町中央２丁目１番地
TEL 049(295)2112　Fax 049(295)0771
URL http://www.town.moroyama.saitama.jp